

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

明るいいいさつ

あいさつの声の音量や声の明るさ、態度やしぐさなど、人それぞれです。子どもたちも同様に個人差がありますが、私は、特に声の音量の低い子には顔をみつめ、あいさつを交わすようにしています。声の音量は低くても、耳を近づけると声を出していたり、唇をわずかに動かしながらおじぎをする子もいます。あいさつを通してすべての児童と心を通わすことができ嬉しく思っています。

しかしながら、相手によく届くような声を出して、明るいいいさつを交わすのが基本だと思いますので、明るいいいさつの声が出せるよう引き続き指導してまいります。

また、学校の職員以外にもあいさつの声を出してほしいと思っています。子ども自ら先にあいさつの声を出してほしいのですが、最低限あいさつをされたらあいさつを返すことから始める必要性を感じています。さらに、道行く人ともあいさつを交わし、あいさつの輪が広がっていくことを願っています。保護者や地域の皆様も、どうぞ子どもたちへあいさつの声をかけていただきますようお願いいたします。

自分の周りへの関心を広げる

私自身の小学生の頃を棚に上げて述べていますが、子どもたちには自分のことだけでなく、周りの人などへの関心を広げてほしいと思っています。狭い歩道で広がって歩くと反対側から歩いてきた人の通行を妨げることや、道路に広がったり歩道から降りて車道を歩くと車の通行を妨げること、廊下の左側を歩くと反対側から歩いて来る人の妨げとなること、運動場や公園で周りの状況も考えず走り回って他の人が危険に感じることに、思ったことを口に出し人を不快な気持ちにさせることなど、多々見受けられます。

その時の状況と相手の気持ちなどを想像させながら、その都度指導をしていく必要性を感じています。

祇園歴史の旅（その21）「本島町・島瀬町の由来」

坂田直士著「佐世保の地名は語る」（平成17年出版）によると、「本島町は、名切免島地岳を切り開いて街を造ったことからこの名があり、島瀬町は、小字『島ノ地』と、その東の『瀬戸』の頭文字をとった地名である。この瀬戸は、島地岳と櫛（はじ）山との間の狭（せ）戸で、光月川の流れる低湿地であった。瀬戸とは必ずしも海水の流れるところばかりではなく、陸地でも両方から山が迫り、狭くなった通路を瀬戸といった。大野の『瀬戸越』もそうである。」と記載されています。

昔の地形が想像できそうです。「瀬戸」の意味もわかりました。町名の由来は奥深いものです。